

別紙様式 2

鳥獣被害防止総合支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（平成 29 年度報告）

1 事業実施に関する項目

市町名	松野町
協議会名	松野町鳥獣被害防止対策推進協議会
事業実施年度	平成 27 年度～平成 29 年度
対象地域	松野町区域内
対象鳥獣	イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル

2 事業効果の発現状況

本町の有害鳥獣捕獲許可による捕獲数は、平成 27 年度 1,200 頭（イノシシ 306 頭、ニホンジカ 878 頭、ニホンザル 16 頭）、平成 28 年度 1,073 頭（イノシシ 341 頭、ニホンジカ 700 頭、ニホンザル 32 頭）、平成 29 年度 1,046 頭（イノシシ 367 頭、ニホンジカ 657 頭、ニホンザル 22 頭）であった。

防護柵については、平成 27 年度 1,344m（県単 750m、町単 594m）、平成 28 年度 4,808m（県単 3,173m、町単 1,635m）、平成 29 年度 5,448m（県単 3,168m、町単 2,280m）設置し、個々の農家のみでなく各集落組織（農事組合等）での整備が行われ、農家以外の住民も含めた対策が進められているが、未整備の地域については依然として農作物の被害が発生している。

今後も捕獲と防護柵整備の対策と併せて、耕作放棄地の解消に向けた取組みなど、有害鳥獣を寄せ付けない地域づくりを促進する必要がある。

注）地域の体制整備、被害防止効果、捕獲状況、人材育成状況、耕作放棄地の解消等様々な角度から記載すること。

3 各事業の内容と事業効果に関する項目

事業内容	事業量	管理主体	供用開始時期	利用率 稼働率	事業効果
【県補助事業】 防護柵（金網柵） 防護柵（金網柵） 防護柵（金網柵）	750m 3,173m 3,168m	各集落組織等 各集落組織等 各集落組織等	H27.4～H28.3 H28.4～H29.3 H29.4～H30.3	100% 100% 100%	県・町の補助事業等を活用し、金網柵等を整備したことにより、設置した地域においては農作物の被害が軽減しているので、引き続き対策を図る必要がある。
【町補助事業】 防護柵（金網柵等） 防護柵（金網柵等） 防護柵（金網柵等）	594m 1,635m 2,280m	個人、各集落組織等 個人 個人	H27.4～H28.3 H28.4～H29.3 H29.4～H30.3	100% 100% 100%	

4 被害防止計画の目標と実績

（１）被害防止計画の目標達成状況

<p>有害獣の捕獲頭数は、狩猟者の高齢化等により捕獲頭数は減少している。</p> <p>防護柵の整備については各種の補助事業を活用したことで計画以上に整備が進んでいる。</p> <p>被害金額及び被害面積については、全体的に目標値を下回る結果となっているが一定の効果が得られている。ただ、高齢化や後継者不足により、今後の被害防止対策の継続が困難になると思われるので、一部の組織に頼った対策ではなく、農家以外の住民や各団体（NPO 法人森の息吹や猟友会）及び近隣市町との連携を深め、有害鳥獣に強い体制の構築に取り組んでいく必要がある。</p>
--

(2) 被害目標数値に対する実績

被害防止計画の目標と実績							事業実施主体の評価
対象鳥獣	被害金額（千円）			被害面積（ha）			
	目標値	実績値	達成率（％）	目標値	実績値	達成率（％）	
イノシシ	690	789	66.6	0.92	1.08	60.0	くくりわなや銃器を使用した捕獲や防護柵等の防止対策、更に獣肉加工処理施設の稼働による一定の効果が現れた。 今後も捕獲の強化や防護柵等の整備、処理施設の有効活用に加え、各関係団体との連携を強化し、農家以外の住民も含めた地域全体での取り組みを構築していく必要がある。
ニホンジカ	629	703	72.6	0.95	0.98	92.5	
ニホンザル	746	919	45.8	0.49	0.40	142.9	
計（平均）	2,065	2,411	60.9	2.36	2.46	90.1	

5 第三者の意見 意見者（所属：宇和島市猟友会 職名：会長 氏名：白瀧 文雄）

コメント	<p>有害獣の捕獲頭数は年々減少しているが、被害金額及び被害面積については、捕獲により、一定の効果が得られていると判断できる。</p> <p>防護柵の整備については、各種補助事業の活用により整備が進んでおり、被害の抑制が図られているが未整備の地域については依然として農作物の被害が発生しており、なんらかの対策を講じることが急務であると考えられる。</p> <p>今後も捕獲と防護柵整備等の対策を行い、被害の削減、耕作放棄地の解消に向けた取り組み等、地域住民や各種団体及び近隣市町との連携を深め、有害鳥獣に強い体制づくりの構築に取り組んでいくことが望ましいと思われる。</p>
------	---